

2-P-9

## 大学生における健康への意識と健康関連行動の関わりについて

畑山千賀子、溝部潤子、御代出三津子、望月千枝、澤田美佐緒、中田直美、高藤真理  
福田昌代、玉村由紀、泉野裕美、上原弘美、中道敦子、柳敏晴、足立了平、野村慶雄

大学生は、在学中に成人期を迎え生活習慣が変化するため、効果的な生活改善のアプローチが必要である。そこで、本研究では、健康関連行動を歯科健診受診後の歯科医院受診を指標とし、健康関連行動に関連する因子について検討した。

平成25年4月に新入生(360名)を対象に入学時歯科健診を実施し、健診結果に基づき、歯科医院への受診を促した。併せて全身と口腔に関する意識調査アンケートを実施した。

本研究への参加の同意が得られた者は351名であった。そのうち、歯科健診受診後1年間において、歯科医院を受診した者の割合は23.9%であった。アンケート調査項目のうち、歯科医院への受診に対し有意な差が見られた項目は「自分の歯に興味がある者の割合」であり、「自分の歯に興味がある者」は興味がない者に対し2.12倍歯科医院を受診していた。また、歯科医院への受診に対しては有意な差は見られなかったが、「歯周病が全身に悪影響を及ぼすことがあると知っている者」は知らない者に対し1.98倍歯科医院を受診していた。

今回の結果から、歯科医院への受診には「自分の歯に興味があること」が大きく影響している可能性が示唆された。また、健康に対する意識の中では、歯周病に関する項目が歯科医院への受診行動に影響を与えていることが考えられた。今後も、調査を継続的に実施し、健康関連行動に影響する因子について検討していきたい。